
◎議案第44号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（土屋清武君） 日程第9、議案第44号 平成28年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第44号は、平成28年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計収入支出決算の認定についてです。

詳細は担当課長をして説明いたします。

（企画観光課長 高橋良延君 説明）

○議長（土屋清武君） 以上で提案理由の説明を終わります。

暫時休憩します。

（午後 1時53分）

○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時10分）

○議長（土屋清武君） これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○5番（藤井 要君） 決算ですので、見ますと、よくがんばっていると思われるわけですが、一番の・・・、入客数というか、宿泊客が増えたということですが、これまでにいろいろ割引なんかを今はやっていますよね。その関係もあるかと思いますが、一番の・・・本当にこれが増えたんだというような原因というか、要因ですね。

もう1点、入湯税の関係で、481人減ったと・・・、これは主に原因としては・・・、これは入ったとしても1人500円かな、これを考えて、どのようなことが原因だと思われるか、どういう分析をしているか、お答え願いたいと思いますけれども・・・。

○企画観光課長（高橋良延君） 2点ほどあったと思います。

まず、この宿泊利用者が増えた一番の要因は何か、そういったことがあったらということですが、まず、やはり一つには、宿泊プラン、いま、合計で全て合せると25プランほどあるわけですが、そういった中で、一番利用者が多いプランを申し上げますと、町民割引プランでございます。これが、昨年、2413名ほどありました。その前年度に比べると約500

人ほど増えております。

そういった中で、あと諸々まだプランはありますけれども、こういったプランによってやはりお客様がまつぎ荘に来てくれたというようなことは言えると思います。

ですから、そういった営業プラン、そういったことの浸透といいますか、そういったことで結果的に集客に結び付けたというようなことがあるかと思います。

ちなみに、宿泊ばかりを申し上げるつもりはありませんけれども、宿泊はそういった形で伸びましたけれども、一方、費用の面で申し上げます。

費用の面で、先ほど食事材料費というのを私は申し上げました。この食事材料費が、平成 28 年度は 41.95 パーセントと申し上げましたけれども、前年度より 1 パーセント減っております、食事材料費率が。

そうしますと、かなりお客さんが 1165 人増えたにも関わらず、食事材料費は逆に 1 パーセント以上減らすことができたということは、ここは非常に利益を出す意味での大きなポイントになったかと思います。

単純に昨年と同じ食事材料費率で換算しますと、115 万 6000 円ほど増えちゃうんですね、材料費が。という、ある意味利益が出たかどうかわからない形のところになったということが想定されるわけでございまして。一方では、好調な営業プラン、そういったことで収益に結びつけた。

一方、費用の方においては、そういった食事材料費率等々の見直し、そういったものによって、やはり費用の削減といいますか、そういうことができたということが重なったうえで、こういった決算の数字になったかと考えております。

入湯料の関係については、こちらは 4810 人昨年利用があったのが 480 人ほど減ということになりましたけれども、これは、かじかの湯が確か前は休業していたんですね、温泉の工事によって。

それで、かじかの湯が今年年間営業できたものですから、そこは、かじかの湯を利用できない人がまつぎ荘に来ていて、逆にその人が戻ったんじゃないかなというような分析はできると思います。

○議長（土屋清武君） ほかに質疑はありませんか。

○2 番（渡辺文彦君） 宿泊に関してのリピーター比率ですね。それと、あと、いま、好調な宿泊プランと言われたんだけど、必ず業者の人にリベートがかかっていると思うんだけど、その売上に対して、リベート率が平均・・・、相対でどのくらいあるのか、その比率を・・・。

○企画観光課長（高橋良延君） リピーター率を申し上げますと、28 年度は 46.8 パーセントで
ございます。宿泊利用者でいくと 1 万 825 人がリピーターでございました。

なお、前年度 27 年度の数字を申し上げますと、46.1 パーセントということで、だいたいほ
ぼその水準で変わってきていないなというようなことでございます。

ただ、リピーターの宿泊者、27 年・28 年度の宿泊者で見ますと、700 人位リピーター、27
年度の宿泊客に比べて増えているという形でございます。

それから、リベートの関係ですね。やはりいろいろなプランによってといいますか、さっき
報償費のところで手数料というのがありましたけれども、一番大きいのが、「ゆこゆこ」という
業者でございますけれども、これが 26 パーセントほど手数料がありまして、これが一番大きい
手数料になるわけでございますけれども、あとは、「じゃらん」ですとか、「楽天」等について
は、10 パーセントから 8 パーセントということでございます。

そういったことでございますので、それぞれの旅行会社とか、それによってのリベートいわ
ゆる手数料はそれぞれ違ってきますけれども、大きいところでは、その 3 つが大きいのではな
いかなということでございます。

○2 番（渡辺文彦君） いま、「ゆこゆこ」のリベートがずいぶん高いのにびっくりしたんだけれ
ども、この「ゆこゆこ」から来ているお客さんの数を教えていただけますか。

○企画観光課長（高橋良延君） 「ゆこゆこ」については、昨年度 1135 人の利用でござい
ます。ちなみに、前年度から 345 人ほど増ということでございます。

○2 番（渡辺文彦君） この業者の送ってくる客さんの単価はばらつきがあるんですか、それ
と、一本値段ですかね。

それから、先ほどかかったその宿泊原価、その材料費を引いた純利益はどんかいになるのか、
そこを教えてください。

○企画観光課長（高橋良延君） 「ゆこゆこ」については、通常のその旅行会社の旅行代金とい
いますか、そういったものでございますので、あるいはその割引の併用というのはできないも
のですから、あくまでも旅行会社で設定している料金についてという形でございます。

それから、食事材料・・・

○2 番（渡辺文彦君） 「ゆこゆこ」から来たお客さんの宿泊単価から原材料費、宿泊費を引い
た金額がわかれば・・・。

○企画観光課長（高橋良延君） すみません。そちらの方の数値については、ちょっといま手元
に数値がございません。こちらは調べまして、報告させていただきます。すみません。

○2番（渡辺文彦君）　ぼくがこれを聞いたのは、リベート率があまりに高いので、これをやって、本当に利益が出るのか。それとも、ほかの業者を当たった方が得なのか、その辺をちょっと確認したかったわけです。

○企画観光課長（高橋良延君）　「ゆこゆこ」については、確かに手数料としては26パーセントと高いですけども、やはり1135人集客してくれているという実績は大きいものがあると思います。

　こちらをじゃあ「ゆこゆこ」をなくしてということになると、まるっきりこのところは空白・・・、1135人の利用がそのままあるかどうかというのはわかりませんが、かなり大きい数値でありますので、手数料としては高いですけども、やはりそのプラン「ゆこゆこ」で集客してくれる。そういったメリットの方が大きいかなということで判断しております。

○3番（長嶋精一君）　今の「ゆこゆこ」の件ですけども、前に、支配人とか副支配人に話をしたことは、「ゆこゆこ」を利用したお客さんが帰られる時に、「今度来られる時は、直接電話してくださいね」とささやいていく、そういうビジネスをやってくださいと私は申し上げました。以上です。

○議長（土屋清武君）　それは、回答はいいですか。

○3番（長嶋精一君）　いいです。

○議長（土屋清武君）　ほかに質疑はありませんか。

○5番（藤井　要君）　この関係ですけども、いま、2万3000人の中で1135人、5パーセントから大ざっぱに言って、あれですけども、この「ゆこゆこ」という会社はどんな会社なんですか、これは。

○企画観光課長（高橋良延君）　こちらは、一つ、先ほど「じゃらん」とか申し上げましたけれども、そういった系列といいますか、そういったことで聞いております。

　「ゆこゆこ」については、国民宿舎協会からの資料がありますが、ほかの公共の宿についても「ゆこゆこ」の利用はございます。

　そういった中で、いわゆる評価という面でもあるわけですけども、「ゆこゆこ」を利用した方の評価の中で、この国民宿舎協会から上位20のリストがありますが、まつぎ荘は1番高い評価を受けているという形でございます。

○5番（藤井　要君）　ちなみに、この「ゆこゆこ」を使っている年代層というか、どのくらいの方たちが利用しているんですかね。

○企画観光課長（高橋良延君）　このプランの「ゆこゆこ」の利用の年齢、年代の統計というの

は、特別にはとっておきませんけれども、まつぎ荘全体を利用する年代別でいきますと、60代から70代は28.8パーセントの利用でございます。その次に、40代から50代、こちらが20.6パーセントでございますので、やはりこの中高年の方々ですか、こちらがほとんどかなということ考えております。

○議長（土屋清武君） ほかにありませんか。

○8番（稲葉昭宏君） 町長にお伺いします。

先ほど、課長の方の話でリピーターが46.8パーセントあるということで、大変底力がある・・・まつぎ荘で。

しかしながら、やはり新築をして・・・、あれは平成18年でしたか、ちょうど10年経っていますよね。なんか一向に、私たちが出入りしている時に、あそこの雰囲気は全然変わっていないし、ロビーの関係も。

もう少しあそこらを直して、松崎らしさというものをもうちょっと出したほうがいいと思うけれども、こうやって黒字になって、宿願の達成、黒字に転換したわけですがけれども、今度は設備投資をするということで大変数字をいじりますからね。消極的になってもしょうがないなという気がします。

せっかくこれだけのリピーター率を誇ることは一番これからも持続していくことは大変だと思うんですけども、そこらの考え方はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 町営ですから、町民に愛される宿になってくれということで、ずっとやってきて、本当に町民の紹介が2413人ということで、本当に職員等皆さん方に尻を叩かれてやってきて、やっと本当にスタートラインについたなという感じです。

稲葉議員は本当にまつぎ荘を利用してしくて、温泉にも入っているし、いろいろ食事してもらって、まつぎ荘の良さと悪さがわかっていると思いますので、その辺は何回も言われていますので、中の方でうまく・・・、より良くなるようにやっていきたいなと思います。

○議長（土屋清武君） ほかに質疑はございませんか。

○2番（渡辺文彦君） ちょっとこれははっきりしないから確認を込めてなんですけれども、去年、確か、地方創生にあたって、プレミアム商品券というのがあって、その中に宿泊のやつも確かあったような気がするんですけども、今回は、町民の利用がすごく多かったんだけど、そんなのが影響していたのかなという気がするんですけども、それは関係なかったですかね。

○企画観光課長（高橋良延君） こちらの町民割引については、例えば、名刺を持ってきたりとか、そういった形で町民割引を受けられるという形になっているものですから、実際にプレミ

アム商品券でこの割引、この 2000 何某という数字ではございません。

○議長（土屋清武君） ほかに質疑ございませんか。

○3 番（長嶋精一君） やっとスタート台に来たというふうに言っていましたけれども、7 期連続赤字という・・・、この失われたことというのは、非常に大きいと思うんですよね。投下した 5 億円近い資本が 2 億円がまぎれもなく失われているわけですよ。

したがって、いま、ここで、スタートラインに入っているということですので、更に気を引き締めて、2 億円を取り戻すんだというような気持ちで、ぜひがんばっていただきたいなと思います。

そして、がんばってもらって、支配人以下従業員に対して、賃金として報いることのできるような、そのような体制になってもらいたいなと思います。

そして、2 つほどお願いですけれども、一つは、2 年前から私は、くどいほど言っているんですけども、財務というか、速報値ですね。先月分の仮決算みたいなものが、翌月の 3 日までには荒い数字でいいから出てくるというような体制を作ってもらいたい。

そうすることによって、過去のことを分析することじゃなくて、機動的な財務体制というのができると思うんですよ。あらゆる面で、仕入れをどうするだとか、営業を・・・、お前ら足りないから、もっとこうしろとかね。ああいうところにもっと売り込みに行けとか、非常に機動的になるわけですよ。

それもやっぱり先月の数字がはっきりしていないと、ある程度ははっきりしていないと、指示が出せないということになると思いますので、ぜひこれは、私は 2 年前から言い続けておりますので、ぜひ、新課長になりましたから、実行していただきたいなと思います。

そして、もう一つは、これはいいことですね。いいことだなと思ったのは、事業報告の中で、新しい切り口で「自転車専用情報紙の出版社を訪問し」と書いてあるんですけども、これは、非常に斬新な切り口だなと思います。

一番、最終的な需要に対して、アプローチするというのは大事だと思う。あとは、伊勢海老プランとかなんとかというのはどこでもやっていることだから、こういうことを増やしていただきたいなと思います。以上です。

○企画観光課長（高橋良延君） 財務諸表の関係でありましたけれども、当然やはり経営状況を把握するには、一刻も早くその前月の状況を把握するというのは、もっともだと思います。

そういった中で、私も 4 月に来て、例えば、その前月の財務情報を受け取るわけですけども、まずは、当然宿泊者の動向、人員がどうだったか、あとは、収益ですね。収益がどうだっ

たかというのがすぐわかるものです。だけど、費用はなかなか棚卸ですとか、精算費用等々があつて、やはりそこはちょっとどうしても日を置かないと確定しないというところがありますけれども、やはり宿泊者数に伴うその収益の動向については、すぐわかるわけですので、それは、例えば、前月に比べてどうだったか、あるいは前年度の同月と比べてどうだったかを含めて動向はわかりますので、それに対して、やはり何らかの手を打っていくということは、これはできるかなということで、私は感じております。

それから、サイクリストの関係ですね。このサイクリストの関係は、やっぱりこれは振興公社の方で独自に発案して、それを実行に移したという形ですけれども、これはどこもやっていないことです。調べましたら。

だけれども、いち早くまつぎ荘はそのサイクリストに注目して、これを何とか取り込みたいというようなことで、昨年いろいろそういった出版社を回ったり、あるいはサイクリストを・・・、当然自転車で来て、その自転車を格納するところですね。そういったところも確保してという中で、振興公社では本当に努力をしているものでございますので、これは引き続き・・・、2020 年を控えていますので、引き続きやってまいりたいと思います。以上です。

○町長（齋藤文彦君） 長嶋議員は、本当に宿泊施設等整備検討委員会でいろいろ2年間提言いただきましたので、稲葉議員からも提言いただきましたので、それをうまく利用して、本当にこれからまつぎ荘は上昇気流に乗っていききたいなと思いますので、これからもよろしく願いします。

○議長（土屋清武君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（渡辺文彦君） いま、長嶋議員の発言に付随してなんですけれども、自転車の取り組みに対して、いろいろ積極的になっていい傾向だと思うんですけど、広島で自転車、サイクリスト専用の宿泊施設があるそうです。その施設は、部屋まで自転車を持ち込めるんです。それがものすごい評判で、そういう方たちをすごく取り込んで、すごく収益を上げているというのを何かで見たことがあります。

いま、課長が言われたように、サイクリストはすごく自転車を大切にするんだそうです。だから、自転車を確保するところがないと、やっぱり安心して泊まれないというところがあるらしいですから、その辺をしっかりと・・・、その格納・・・、利用者が安心できるような設備を整えていただきたいと思います。

○企画観光課長（高橋良延君） 渡辺議員がおっしゃるとおりでございます。当然サイクリストは、1台何十万円あるいは何百万円するかわかりませんが、かなり高価な自転車でごさ

いますので、そこは、まつぎき荘においても会議室をいま、格納の場所として、それはカギができるものですから、そういった形でできるような態勢は整えているということは聞いております。

これを部屋までという形では本来いけばいいんでしょうけれども、そこはまた今後の課題かなと思いますけれども、とりあえず、外に置きっぱなしということではなくて、中に格納できるという態勢は整えているということでございます。

○議長（土屋清武君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（土屋清武君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（土屋清武君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（土屋清武君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○8番（稲葉昭宏君） いま、いろいろ議論がありましたけれども、まつぎき荘を赤字から脱却しようというなんかオール松崎でやってきて、やっと成果が出たという感じですね。

さっきも課長の方の報告の中で、地元の誘客の関係で約1割あったと、こんな・・・、すごい、びっくりしちゃったんだけどね。こういうことを考えると、本当に町民の中で、みんなまつぎき荘を支えようという・・・、そういうことを考えると、議会で5年間の委託を承認したという意味もあるなど、私は思っているわけでございます。

そして、これは、ちょうど先日、町長もご存じだと思いますけれども、評議委員会があつて、私もそこに出席しまして、「楽天トラベル」と「ゆこゆこ」ですか、そして、もう一つ、さっき何とかというのがあったね。この3社の評価がみんな一番というのが、接客という・・・、国民宿舎は全国で107あるそうですね。その中で、その接客が一番というのがまつぎき荘ですね。これはすごいデータなんでしょうけれども、これは、いかにまつぎき荘の職員が一生懸命やっているかと・・・、パート、臨時などを混ぜると約50人いるわけですけどね。本当に一丸とな

ってやっているというのは、大いに評価できることじゃないかなと思います。

そういうことを考えて、まず、今後も十分にさっき言ったりピーターの件から考えましても、潜在能力は十分になるなと思います。より一層がんばって、来年度は少しでも黒字を倍にするくらいの勢いでやっていただきたいなと思います。そういう願いを込めまして、本案に賛成をいたします。

○議長（土屋清武君） これをもって討論を終了します。

これより議案第 44 号 平成 28 年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（土屋清武君） 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり認定されました。
